

第9回飛島クリーンアップ作戦

速報

風薫る5月、汗と涙と英知を結集し、田下海岸の清掃を決行！

「日本の渚・百選」にも選定された山形県唯一の離島「飛島」。一方で、最近は大量の漂流・漂着物が社会問題となっている。こうした中で、美しい海岸を取り戻すためのクリーンアップ作戦が、今年も5月30日（土）に飛島西側の田下海岸で開催された。島民からの訴えを受けて平成13年に山形県と酒田市の共催で始まり、官民産学の多様な協働のもと実施してきた本事業も9年目を迎え、24時間テレビチャリティ委員会の協賛のもと、清掃活動が行われた。昨年は強風により当日の定期船が欠航となったため、前日までに渡航していたスタッフ、島民で活動したが、今回は島民・市民ボランティア・関係者のほか、庄内地域はもとより、県内内陸部、近隣の秋田・宮城県、京都府から約280名の参加があった。また、9年ぶりに再開された飛島小学校の児童・教諭や、島と交流のある新潟県粟島からも3名の参加があった。

例年の清掃活動により、海岸のごみの量は減少しているものの、この冬の荒天により、大陸から漂流・漂着したと思われるプラスチック類や発泡スチロールが散見された。一方で、漁網やロープなどは絡まって堆積している状況だった。回収したゴミは、法木漁港まで船で運ぶ予定であったが、この日、法木地区は東風が強く波が高いため、漁船が運航できないという状況で、バケツリレー方式によりゴミを崖の上まで運び、崖の上の農道からトラックで運搬するという方式が採られた。このような大変苦しい状況だったが、参加者は、2時間一致団結して清掃活動を行い、集めたゴミは、ゴミ袋約950袋分（トンパッ



ク16袋)、推定3トンとなった。

清掃終了後は、東北公益文科大学の学生による島の案内や、東北電力のご協力により、島の発電所の見学会が行われ、島の魅力を垣間見た参加者もいたようである。

五月最後の土曜日。今年もまた、飛島からさわやかな風が吹いた。

【参加者の声】

- 一つの目標に向け、知らない人同士が協力しあうことはすばらしいと感じた。思ったより、ごみは少なかった。楽しかった。（10代女性）
- 最初、ごみが多いと感じたが、大人数で効率的に作業できた。飛島の海を後世に残したい。（30代男性）
- 昨日の夜、風が強く、本日の開催が心配された。今日は帰っておいしいビールを飲みたい。（40代男性）

●この事業は「24時間テレビ（山形放送他30局）日本をきれいにするプロジェクト」の助成、協賛を受けて実施されました●

●実行委員会構成団体●

NPO法人庄内海浜美化ボランティア
NPO法人パートナーシップオフィス
NPO法人美しい庄内
社団法人山形県産業廃棄物協会
社団法人酒田青年会議所
東北公益文科大学
飛島コミュニティ振興会
酒田海上保安部
酒田市／山形県庄内総合支庁

●協力●

株式会社みなと
東北電力株式会社酒田技術センター
日本テレビ